

## 環境社会学部 環境社会学科

### 履修の手引と手続き

#### <小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	336
II	ディプロマ・ポリシー	337
III	授業科目について	337
IV	授業科目の単位と認定	337
V	卒業に必要な単位について	338
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	339
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	340
	1. 学科共通科目群	340
	2. 基礎科目群	342
	3. 専門科目群 I	343
	4. 専門科目群 II	344
	5. 専門関連科目群	344
	6. Global College 科目群	345
	7. 特設科目群	347
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	348
IX	履修申請について	351
X	正規の履修からはずれる場合	351
XI	試験について	352
XII	授業科目の単位認定と進級および留年	353
XIII	成績発表	354

## 履修の手引と手続き

### I カリキュラム・ポリシー

環境社会学部では、人と自然が調和した、豊かで持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成を目指している。その教育課程は、以下の体系で構成する。

- ・環境と社会に関する幅広い知識を学ぶ『基礎科目群』と、環境と社会に関する専門的な知識と実践活用技能を身につける『専門科目群Ⅰ』
- ・環境と社会に関する課題を認識し、情報収集や論理的判断、解決方法の構想などの能力を養う『専門科目群Ⅱ』
- ・言語や習慣などの理解を通じて、他者と協調するコミュニケーション能力を磨く『学科共通科目群』
- ・環境と社会に関して学んだ知識を、環境ビジネス分野での実践や社会参加に役立てる手法を学ぶ『専門関連科目群』

各科目群の概要は、次の通り。

#### 『基礎科目群』

今日の地球温暖化や生物多様性の危機、化石資源の枯渇等の地球規模の環境問題についての理解を深める。併せて、環境法、環境政策、環境社会等の環境関連学を統合的視点に立って総合的に学び、「持続可能な社会」形成についての基礎知識を修得するとともに、環境への課題意識を深める。

#### 『専門科目群Ⅰ』

3つのコアから構成される。

- ・「緑と自然」：都市の緑の保全と創出、並びに里地里山の保全等の環境保全と地域の関わりを学ぶ。
- ・「農業と食」：これからの農業のあり方や新たな価値創造、安全・安心な食の供給について学ぶ。
- ・「園芸と健康」：植物による癒しの効果や良好な生活環境の創出について学ぶ。

#### 『専門科目群Ⅱ』

4年間を通じたキャリア形成教育等により、社会人として必要な基礎力（文章力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力）の向上を図りつつ、インターンシップ等を経て一人ひとりのキャリアデザインを描き、就業意識を高める。また、プロジェクト研究等の実践的な学びを通じて、専門知識と課題発見、解決能力を涵養する。

#### 『学科共通科目群』

語学基礎力とともに、第二外国語の履修、短期・長期の海外留学等により、グローバル人材として必要とされる語学力および異文化理解力を着実に向上させる。

### 『専門関連科目群』

ビジネス分野の知識や進路として考えられる業界等で役立つスキルを学ぶことで、自ら体得した知識とスキルを社会に活かすための就業力を高める。

## Ⅱ ディプロマ・ポリシー

環境社会学部は、人と自然が調和した、豊かで持続可能な社会の構築に貢献する学士を育成することを目的に、当該人材が満たすべき能力を定め、アドミッション・ポリシーに示されるような資質の学生に対し、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程を提供する。そして所定の教育課程を修め、以下のような能力を身につけた学生に対して学位を授与する。

- ・環境および社会に関する幅広い基礎的知識を理解するとともに、その意味を日常生活や歴史的視点と関連付け、実践的に活用する能力
- ・環境および社会に関して人類が直面する課題を認識し、情報を科学的に収集・分析して、高い倫理観と論理的思考に基づき判断、解決方法を構想し、表現・提案・実践する主体的、創造的能力
- ・言語や習慣など文化的背景が異なる人々とコミュニケーションでき、多様な価値観を尊重しつつミッションを立て、目的を共有し協調する能力
- ・環境および社会に関する知識と技能、倫理観を持続的に高めるために生涯にわたって学習し、実践と社会参加を通じて、専門家として、また市民としての社会的責任をはたす能力

## Ⅲ 授業科目について

環境社会学部環境社会学科における授業科目は、学科共通科目群、基礎科目群、専門科目群Ⅰ・Ⅱ、専門関連科目群、Global College 科目群、特設科目群、リベラルアーツサイエンス科目群から構成されている。

## Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制が採用されている。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修授業科目に対して、試験もしくは、その他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。

## V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系列	学部・学科	環境社会学部	環境社会学科
	単位数		
学科共通科目群（外国語・情報リテラシ）	14		
基礎科目群	12		
専門科目群Ⅰ	32		
専門科目群Ⅱ	16		
専門関連科目群	4		
指定された各科目群より修得した科目以外に、上記の科目群もしくはGlobal College 科目群および特設科目群，リベラルアーツサイエンス科目群ならびに経営情報学部，国際人文学部，福祉総合学部，メディア学部の科目より選択必修 ※ただし，他学部の科目で履修可能な単位は，30単位までとする。	46		
計	124		

## VI 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには、「キャリア形成Ⅰ・Ⅱ」及び1年次の必修科目およびそれらを含めてを含めて36単位以上修得しなければならない。

各学年における授業科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学年	単位数の目安
1年次 修得単位数 40単位	学科共通科目群（外国語・情報リテラシ） Fundamentals of English I・Oral Fluency I…2科目4単位（必修） 情報メディア論……1科目2単位（必修） 情報リテラシー……1科目4単位（必修）  基礎科目群 社会学原論……1科目4単位（必修）  専門科目群Ⅱ キャリア形成Ⅰ……1科目4単位（必修）  ※指定された各科目群より修得した科目以外に22単位
2年次 修得単位数 40単位	学科共通科目群（外国語・情報リテラシ） Fundamentals of English II・Oral Fluency II…2科目4単位（必修）  専門科目群Ⅰ 園芸論……1科目2単位（必修） ガーデニング概論……1科目2単位（必修）  専門科目群Ⅱ キャリア形成Ⅱ……1科目4単位（必修）  ※指定された各科目群より修得した科目以外に28単位
3年次 修得単位数 34単位	専門科目群Ⅱ キャリア形成Ⅲ……1科目4単位（必修）  ※指定された各科目群より修得した科目以外に30単位
4年次 修得単位数 10単位	専門科目群Ⅱ キャリア形成Ⅳ……1科目4単位（必修）  ※指定された各科目群より修得した科目以外に6単位
卒業修得単位数 124単位	

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

### 1. 学科共通科目群（外国語・情報リテラシ）

学科共通科目群は、外国語によるコミュニケーション能力・情報リテラシー能力の養成により、円滑に学生生活に入るための基礎知識・技法を身につけるための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群 (外国語・情報リテラシ)	Fundamentals of English I	②				14 単位	
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II		②				
	Oral Fluency II		②				
	ビジネス英語 I				2		
	ビジネス英語 II				2		
	スペイン語 I A	2					
	スペイン語 I B	2					
	スペイン語 II		2				
	スペイン語 III			2			
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II		2				
	中国語 III			2			
	中国語 IV				2		
	韓国語 I A	2					
	韓国語 I B	2					
	韓国語 II		2				
	韓国語 III			2			
	韓国語 IV				2		
	ハンガリー語 I A	2					
	ハンガリー語 I B	2					
	ハンガリー語 II		2				
	ハンガリー語 III			2			
ハンガリー語 IV				2			
ポーランド語 I A	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群 (外国語・情報リテラシー)	ポーランド語 I B	2				14 単位	
	ポーランド語 II		2				
	ポーランド語 III			2			
	チェコ語 I A	2					
	チェコ語 I B	2					
	チェコ語 II		2				
	チェコ語 III			2			
	ポルトガル語 I A	2					
	ポルトガル語 I B	2					
	ポルトガル語 II		2				
	ポルトガル語 III			2			
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
	フランス語 II		2				
	フランス語 III			2			
	フランス語 IV				2		
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II		2				
	ドイツ語 III			2			
	ドイツ語 IV				2		
	スウェーデン語 I A	2					
	スウェーデン語 I B	2					
情報メディア論	②						
情報リテラシー	④						

## 〔備考〕

- (1) 学科共通科目群では、第一外国語として英語を学ぶ。うち、Fundamentals of English I・II, Oral Fluency I・II は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためには履修前提条件として、それぞれ I を修得していなければならない。
- (3) 第二外国語において I B を履修するには I A を修得していなければならない。また II を履修するには I B, III を履修するには II, IV を履修するには III を修得していなければならない。

## 2. 基礎科目群

基礎科目群は、社会学および環境社会学を学び、専門科目につながる基礎知識の習得をめざす科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基 礎 科 目 群	社会学原論	④				12 単位	「世界の中の日本」 は「グローバル研修」 の準備講座である。
	社会調査	4					
	社会調査実習		2				
	環境社会学	4					
	ジェンダーと社会	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とキャリアデザイン		2				
	世界の児童文学	2					
	地球環境論	2					
	環境関連法	2					
	環境と科学	2					
	食と健康	2					
	世界の中の日本	2					
	地域と大学		2				
	自校史研究（建学の精神と 大学の理念）		2				
	環境政策論		2				
	環境教育論		2				
環境倫理	2						
環境経済	2						
生活と環境	2						

## 3. 専門科目群 I

専門科目群 I は、環境保全や緑化・園芸技術について学び、自然との共生・緑の活用など、主に自然環境の観点から環境専門家に必要な知識・技術を習得するための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 I	園芸論		②			32 単位	
	ガーデニング概論		②				
	ガーデニング実習 I		2				
	ガーデニング実習 II			2			
	家庭菜園		2				
	ハーブ園芸			4			
	土壌・肥料論			2			
	育苗実習			2			
	屋上緑化			2			
	エクステリア			2			
	園芸植物病論				2		
	色彩の心理		2				
	香りの心理		2				
	社会園芸			4			
	ボランティア論			2			
	ユニバーサルデザイン論			2			
	看護学			2			
	園芸療法論				2		
	園芸療法実習				2		
	高齢者の心理				2		
	身体障がい者の心理				2		
	環境生態学			4			
	里地里山保全論			2			
緑地まちづくり			2				
アロマテラピー			4				
環境と食文化			4				

#### 4. 専門科目群Ⅱ

専門科目群Ⅱは、フィールド教育（学外研修，インターンシップ），プロジェクト研究，キャリア形成からなる実践・体験を通じて社会で活躍する力を養うための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅱ	キャリア形成Ⅰ	④				16 単位	
	キャリア形成Ⅱ		④				
	キャリア形成Ⅲ			④			
	キャリア形成Ⅳ				④		
	環境社会国内研修	2					
	環境社会海外研修	2					
	インターンシップ			2			
	地域プロジェクト		2				
	環境社会プロジェクト研究 a	2					
	環境社会プロジェクト研究 b		2				
	環境社会プロジェクト研究 c			4			
	環境社会プロジェクト研究 d (卒業研究指導を含む)				4		

#### 5. 専門関連科目群

専門関連科目群は、専門科目で学んだ知識を社会で幅広く活用するために、ビジネスの知識や関連業界で役立つ技能などを修得するための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低取得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 関 連 科 目 群	環境と新素材	2				4 単位	
	環境ビジネス			4			
	ビジネス・スキル		4				

## 6. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」において修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」および「特設科目群」と併せて30単位を限度として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry	2				
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Europe and Japan a	2				
	Europe and Japan b	2				
	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan・U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
Sound Design		2				
Gender and Culture	2					
Women in Asia	2					
Modernism in Architecture	2					

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	The Cityscape Worldwide	2				
	Business and Society	2				
	International Finance			2		
	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2			
	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science	2				
	Japanese to English Translation			2		

## 7. 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたうえで、さらにグローバル化社会を担う人材となるために、語学実践力を養うことを目的とした科目である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
特 設 科 目 群	Japanese Language and Culture					「Japanese Language and Culture」は、英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とした科目である。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」および「Global College 科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。 「Basic Japanese a・b・c・d」「Intermediate Japanese a・b・c・d」「Advanced Japanese a・b」「JLPT course a・b」は、日本語プレサメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。 その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。
	Basic Japanese a	4				
	Basic Japanese b	4				
	Basic Japanese c	4				
	Basic Japanese d	4				
	Intermediate Japanese a	4				
	Intermediate Japanese b	4				
	Intermediate Japanese c	4				
	Intermediate Japanese d	4				
	Advanced Japanese a			4		
	Advanced Japanese b			4		
	JLPT course a			4		
	JLPT course b			4		
	Japanese Project a			2		
	Japanese Project b			2		
	日本文化 a	2				
日本文化 b	2					
日本社会 a	2					
日本社会 b	2					

## Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス (LAS) センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」  
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4  
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。

リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系列	授業科目	年次および単位数				備考
			1年	2年	3年	4年	
人格形成領域	①地球と環境	生活と環境	2				L A S 科目群から修得した単位の中から「Global College 科目群」および「特設科目群」と併せて30単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます。詳細については、オリエンテーション時に説明します。
	②人間と思想	現代の人間思想	2				
		現代思想	2				
	③国家と規範	日本国憲法	2				
		法律学概論	2				
		政治学入門	2				
	④倫理と社会	倫理学概論	2				
		情報社会と情報倫理	2				
	⑤社会とジェンダー	女性学入門	2				
		ジェンダー論	2				
女性学		2					
一般教養領域	①人類のあゆみ	サルからヒトへ	2				
		日本の歴史 a	2				
		日本の歴史 b	2				
		アメリカの歴史	2				
		韓国の歴史	2				
		中国の歴史	2				
		人類と科学技術の発達		2			
	②文化のかたち	文化人類学	2				
		日本文化論	2				
		アメリカ文化概論	2				
		日本美術	2				
		西洋美術	2				
	③社会と経済	社会学入門	2				
		経済事情	2				
		経済学入門		2			
		経済学の基礎	2				
		中国経済入門		2			
	④健康と福祉	心と身体の科学		2			
健康維持と生活習慣			2				
基礎能力領域	①非言語分野	基礎の数学	2				
		線形代数学	2				
		統計学の基礎知識	2				
		総合基礎教養Ⅰ(非言語)	2				
		総合基礎教養Ⅱ(非言語)	2				
	②言語分野	日本語基礎表現法	2				
		総合基礎教養Ⅲ(言語)	2				
		総合基礎教養Ⅳ(言語)	2				
	③ビジネスマナー	ビジネス入門	2				
		ビジネス基礎		2			
	ビジネスマナー		2				

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎能力領域	③ ビジネスマナー	航空・空港キャリア概論 a	2				
		航空・空港キャリア概論 b	2				
	④ プレゼンテーション	プレゼンテーション I	2				
		プレゼンテーション II	2				

## IX 履修申請について

1年次から3年次において履修しようとする授業科目は、毎学期の初めの指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどが無いよう、入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照会期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は、受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修では、授業科目、コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。入力の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また、入力の際、PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため、登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお、大学内に設置されているPCの台数は限られているので、Web履修のために長時間占有しないこと。
- (6) コマ・コード番号とは、時間割表に授業科目と共に記載されている番号で、その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は、学業の意思なしとみなされて、退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 副専攻や留学等、履修についての質問は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

## X 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については、次年度または次学期において再び履修することができる。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は、必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

## XI 試験について

### 1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気または正当な理由により長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

### 2. 追試験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である

### 3. 再試験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

### 4. 試験に関する注意

#### 1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定する場所におかななければならない。
- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかななければならない。

- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
  - (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
  - (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
  - (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
  - (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。
2. 試験における不正行為の懲戒について
- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
  - (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
  - (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。
3. 試験における不正行為とは
- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
  - (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
  - (3) 許可されていないものを使用すること。
  - (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
  - (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
  - (6) 論文・レポート等において、剽窃行為をすること。  
 ※剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

## XII 授業科目の単位認定と進級および留年

### 1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。  
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。

- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

## 2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。  
なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

## XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーより本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。

なお、指定された期日以外には交付しない。

- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位取得（合格）とする。

(合格)	(正規試験不合格)	(追・再試験不合格)
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし	
C：69～60点	評価不能	

- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA (Grade Point Average) を表記している。

詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。

- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので学部事務室に問い合わせること。

- (5) 事故・病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は学生証および委任状を持参すること。